

令和5年5月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

新型コロナウイルスの5類への移行に伴い、通常の営業に戻りつつあることから、卸・小売業やサービス業、運輸業等の非製造業を中心に売上が増加し、全体の景況DI値は横這いから上昇に転じた。

一方で、多くの業種において原材料費や電力料金等のコスト増に見合う価格転嫁が十分に行えておらず、加えて人手不足の問題や人件費の上昇が経営を圧迫している。

今後も原材料費や電気料金の高騰は続くと思われ、さらには、物価高が買い控えを招くと危惧する声もあるなど、先行きは依然不透明な状況が続いている。

山口県の主要指標DI値（令和5年5月末現在）

※DI値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI値 >)
	前年同月比は、好転：10.0% 悪化：32.5% DI値：▲22.5% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI値 >)
	前年同月比は、増加：20.0% 減少：28.8% DI値：▲8.8% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI値 >)
	前年同月比は、好転：11.3% 悪化：33.8% DI値：▲22.5% ポイント

山口県の業種別DI値(業界の景況)（令和5年5月末現在）

--	--	--	--	--

食料品	繊維業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲25.0	▲50.0	▲100.0	▲50.0	▲50.0	▲25.0	▲33.3	▲40.7

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業
▲40.0	▲25.0	▲60.0	18.2	▲27.3	42.9	0.0	▲10.4

全体
▲22.5

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	ゴールデンウィークの期間はコロナ前の8割程度まで持ち直した。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	6月から原材料の値上げの通知があり、収益を圧迫する見込みである。雇用情勢が厳しく応募がない状態が続いている。	パン・菓子製造業 下関市
	日本人の食文化が魚より肉、米よりパン食へと変化した。水揚げの減少で原魚の価格が上昇している。漁業関係者の人手不足は深刻で、夢の無い将来では、後継者問題も深刻になる。	水産食料品製造業 長門市
	業況はコロナ前に戻りつつある。中小企業にとって、ここ最近の光熱費の高騰、人件費の上昇等は、売上は上がっても利益が厳しく、補助金等で補える範囲ではない。	水産食料品製造業 下関市
	ゴールデンウィークに押し寄せる人の波が、一過性のものではなく今後も長く続くものであってほしい。収入が伸びれば支出も伸びる。今後の電気料金等の値上げが収益にどれだけ影響するか見極めたい。	食料品製造業
	コロナの感染もほぼ収束し、飲食店等もほぼ通常営業となり売上の減少は軽微なものとなった。今年は5月の早い梅雨入りで長雨による農作物への影響が懸念される。肥料、燃料など各種コストの大幅な増加により、製造原価が上昇し事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種生産資材の値上げが続いているなかで、取引先によっては、値上げを拒否するところもあり、農業者には、原価割れの状況が続いている。	精穀・製粉業
繊維工業	原材料費は値上がりしているが、現在のところ状況は横這いである。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	総会を4年ぶりに開催した。組合としての活動は皆無である。	製材業・木製品製造業 岩国市
	組合員の平均売上額は、コロナ禍の令和4年5月と比べ10%の減少。スギ・ヒノキの原木価格は下落傾向、特にスギは顕著である。収益も上がらず、依然として景気回復は感じられない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	用紙代の値上がりに伴い販売価格は上がったが、その分支払いも増えた。	印刷業 山口市
	コロナの分類が2類から5類に引き下げられ、経済活動はコロナ前に戻りつつある。観光業界もインバウンドの復活や国内旅行客の増加により活気が出てきたところだが、物価上昇の波は収まらず、国民生活は依然として厳しい状況が続いている。印刷業界は変わらず、紙、インキ、印刷版等の原材料の高騰が続いており、特に紙類は立て続けに値上げが実施され、収益の圧迫要因となっている。以前に比べれば、価格転嫁も受け入れられているが、まだまだ充分ではなく、粘り強い交渉が必要である。	印刷業 下関市

<p>窯業・土石製品</p>	<p>5月は山口県農林水産部の公表価格の見直しがあり、設計値アップをすることができた。各原材料の値上げによる影響を理解いただき感謝している。山口県土木建築部においても公表価格の見直しをしてもらえるよう陳情活動を続けている。4月からセメントが値上げされ、電気代の値上げも相当の影響があり、本年度も値上活動からのスタートとなり苦しい状況である。</p>	<p>コンクリート製品製造業 柳井市</p>
	<p>原材料の高値は維持されたままである。電気代・セメントの値上げが更に原価の高騰に影響を及ぼし、1月に値上げした時点の状況と変わっており再度価格の見直しの検討が必要となった。1月の値上げがようやく建設物価調査会の5月号より反映された。</p>	<p>コンクリート製品製造業 防府市</p>
	<p>出荷量は、前月比89%、前年同月比93%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定しているが値上げの動きがある。</p>	<p>生コンクリート製造業</p>
	<p>4年ぶりの行動制限のないゴールデンウィークで、久しぶりに故郷のお墓参りに帰られた方も多かったと思う。問い合わせに期待したい。</p>	<p>石工品製造業</p>
	<p>コロナによる制限も無くなり、「萩焼まつり」が5/1～5まで萩明倫学舎と萩市民館を主会場に萩市全体で開催された。出店事業者は協賛店を含めて58店舗（昨年47店舗）のコロナ前より多い参加となり、当組合員は全員が参加した。期間中は大変多くの来場者があり、売上は昨年を大きく上回った。ある窯元からは、燃料費・材料費の高騰を考慮し、10%程度値上げをすることにより対応するとの事声が聞かれた。6月から電気代の値上げがあるが、それに伴いさらに収益が圧迫されることを懸念している。</p>	<p>陶磁器・同関連製品製造業</p>
<p>一般機器</p>	<p>5月は例年同様に周南コンビナート大型修繕工事のため繁忙期で、工事は6月末まで続く予定である。受注単価は前年に比べ若干上がったが、経費も上昇しており、利益に増減は見られない。</p>	<p>一般機械器具製造業 下松市</p>
	<p>業況は特に変わらず、原材料費や燃料費の高騰により、売上は上がっても収益は変わらない状況である。人手不足により納期が後ろにずれていく。人員の縮小により設計開発部門が喪失し、高付加価値の装置案件を受注できず、顧客ニーズに答えられなくなっている。早期に採用を強化し人員を確保することが望まれるが、募集経費の増化や人員増加による人件費等の増加が資金繰りに影響を及ぼす点も大きな課題であるため、積極的投資に踏み切れないでいる。購入品の入手難は少しずつ解消に向かっているが、通常になるには時間がかかる。国内の鋳物メーカーの廃業が加速している。</p>	<p>一般機械器具製造業 防府市</p>

	<p>再び円安傾向となり金融情勢も不安定である。ロシアのウクライナ侵攻に伴い世界情勢が不安定化し、中国、アメリカ、EU、日本等の経済摩擦をも引き起こし、資源不足・資源高により企業収益に大きな影響が出ていて先が見えない状況である。貿易収支も大幅な赤字が続いており、これに関連して電気、ガス料金にとどまらず、物価のアップは中小企業にとって大きな負担となっている。企業の国内回帰、インバウンドの回復等明るい材料もあるが、一部の地域を除き、地方経済への波及効果は限定的である。大手企業の賃上げが進む一方、中小企業の賃上げはままならず、サービス業において特に人材の確保が困難な状況である。外国人材確保の面でも、日本の低賃金、円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾、韓国との人材確保競争は厳しいものがあり、国内での競争も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。</p> <p>厳しい状況に変わりはない。体力勝負となっている。</p> <p>受注はあるが、人材不足である。</p>	<p>一般機械器具製造業 宇部市</p> <p>一般機械器具製造業 下関市</p>
輸送機器	<p>鉄道車両関係の現状は海外からの受注があり順調に推移しているが、令和6年(2024年)度後半から受注量は減少となる見通し。原材料費や電気料等の水道光熱費の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予定よりも大幅に受注量が減少し、1~2年は厳しいとの意見もあり、引き続き今後の受注動向を注視したい。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>倉庫売上は値上げの効果もあり、昨年同時期に比して増加した。主力の海苔が不作のため在庫量が減少したが例年通りの在庫量であるので、海苔の保管量が減少し海苔部門の収入が減少した。</p> <p>運賃・箱代他経費が高騰しているが、十分な価格転嫁ができていない為、収益が悪化している。</p>	<p>乾物卸売業</p> <p>生鮮・魚介卸売業</p>
小売業	<p>コロナが収束傾向であり前年より客足・売上が少しずつ上がってきている模様である。山口県の化粧品専門店においてインバウンドの効果はあまり見られない。コロナ禍、高価格帯のスキンケアが好調だったお店は、それに加えてメイク類の売上がプラスして上がっている模様。最近の専門店でも百貨店ブランドを展開するお店が増え、流通の垣根が感じにくくなっている。専門店としての活動(エステ、ハンドタッチ、眉スタイリングなど)を前面に出して、より多くの消費者に伝えなければならない。</p> <p>街の電気店が減少し、対応範囲が拡大している。住宅メーカーが低価格の住宅を比較的多く建築し続けているので、仕事量はある状況。</p>	<p>化粧品小売業</p> <p>機械器具小売業</p>

	<p>コロナも5類に移行され人通りも少しずつ回復に向かっている。5月のイベントとして「周南蚤の市」が開催され、県外からの人気の出展者もあり多くの来客で賑わった。月一回程度のイベント開催日はたいへん賑わっているのので、今後も期待したい。</p>	各種商品小売業 周南市
	<p>売上は前年同月比約1%の減少。新型コロナウイルス5類への移行に伴う客足の回復、売上増加を期待したが、全国旅行支援事業等の後押しがなくなった分、観光需要が伸びなかった。度重なる原材料・電気料等のコスト増に見合う価格転嫁、売上確保が十分に行えず、収益は悪化傾向にある。</p>	各種商品小売業 萩市
	<p>5月の供給高は、日曜日を店休日としたため前年比96.6%、来店者数90.5%。醤油メーカーによる試食販売を実施し、たいへん好評で来店者が増え、供給増加に繋がった。コロナ禍前の日常に戻りつつある。</p>	各種商品小売業 下関市
商店街	<p>諸物価高騰の影響が出始めた。流通コスト、4月分、5月分の仕入れ支払いなど、実質的なコストが増加。売値上げは、買い控えに繋がるだけでなく、購買行動そのものを控える傾向を強め、街の人通りも減少傾向である。観光地や行楽では積極的な行動もみられ、客数の増加もあるが、消費は手控えるという傾向が続くと思われ、売上戦略を立てる必要がある。</p>	岩国市
	<p>人通りは多少増えたようだが、消費が上昇している感覚はなく、むしろ物価高による節約傾向で減衰しているように思う。</p>	宇部市
	<p>人出は多少増えてきたが、売上は変わらない。ある店舗では「この人出では店を閉めなければならなくなる。営業内容を変えるにしても後継者がおらず困っている。」と店主が話す。人通りの少ない商店街ではなかなか手立ても見つからない。</p>	萩市
	<p>依然として商店街の人通りが少ない。仕入価格の上昇により販売価格の値上げを余儀なくされ、それに伴い買い控えが起きる悪循環に陥っている。</p>	下関市
サービス業	<p>コロナ感染症が5類に移行され従来の営業に戻ってきた。売上はコロナ前と変わらないが、物価上昇の影響で収益は悪化している。</p>	美容業
	<p>新型コロナウイルス感染症も落ち着きをみせているものの、原材料価格の高騰などで経営状況は厳しい。</p>	理容業
	<p>自動車は、高度な先進技術や先進安全装置が搭載されるなど電子化が急速に加速しており、これらの車輛の検査を行うために令和6年(2024年)10月からOBD検査(車載式故障診断装置による検査)がスタートする。整備事業者が当該検査に対応できるように習熟期間を1年間設け、今年の10月からプレ運用が行われることになっているが、対応についていけない整備事業者も多くみられ、廃業に追い込まれるところも出ることが予想され、商工組合としていかにして支援していけるかが今後の大きな課題となっている。</p>	自動車整備業

	<p>値上げにより売上高は増加したが、電力の値上げ率が異常で会費の値上げをしても追いつかない。電力価格の地域差をなくす検討を願っている。電力価格の上昇等で家計が圧迫されているためか入会動向が鈍い。新型コロナが 5 類に移行されたので、屋内施設でもマスク無しで運動できるような雰囲気にならなければよい。</p>	スポーツ・健康教授業
	<p>4 月に引き続き、前年同月比で売上増加の事業所が多かった模様。本年の繁忙期は長いとの声も聞き、アフターコロナで人の動きが戻ってきていると感じる。しかしながら、消費者の価値観が変わり、資材の高騰も続いているため、今後も新たなサービスや利益を出し続ける努力が必要であることは間違いなく、油断は禁物である。</p>	普通洗濯業
	<p>飲食店に限らず、旅行業、ホテル業界も大変忙しくなってきた模様。経済は連動しているので飲食業界も景気は回復した。引き続きお客様に満足していただけるサービスをしっかりと提供していく。</p>	飲食業
	<p>全国旅行支援が 4/17 で終了し、大きく減少するのではと危惧していたが、前年同月比で売上 126.9%、宿泊人員 130.2%と大幅に増加した。コロナ前令和元年（2019 年）5 月との比較では、売上 93.4%、宿泊人員 114.3%となる。宴会需要が未だ回復せず、売上高に大きく影響している。</p>	旅館業 山口市
	<p>大型連休の集客数は前年比 6%の減少。売上高も 9%の減少となった。観光の移動制限が自由になったことで、近場の観光が敬遠された影響と思われる。電気代や原油高、物価高騰により、収益は厳しい状況が継続している。</p>	旅館業 長門市
	<p>全国旅行支援等は終了したが、修学旅行、団体客、個人客ともに戻ってきている。</p>	旅館業 下関市
建設業	<p>中電への工事申請 130 件(当支部 150 件)、前年同月 110 件(同 79 件)。太陽光発電への申請 26 件(前年 23 件)、オール電化申請 75 件(前年 48 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申請 13 件(前年 13 件)であった。</p>	電気工事業
	<p>工事の回復は予想よりやや遅れ気味である。R3 年（2021 年）に比べると見積単価・契約単価が約 1 割上昇している。建材の高騰（平均 20%）と給与の上昇（2~3%）が要因と推測される。来期より回復するものと予想される。</p>	左官工事業
	<p>新型コロナウイルスは、市場経済の低迷に歯止めをかける必要と重症化リスクが低下したことにより 5 類に引き下げとなったが、予断を許さない状況は続く。低金利政策が継続されることから、当分は円安が続くと考えられるが、海外依存している原材料の高止まりは続く、一方で経営者は働き方改革、賃上げの負担にも対応しつつ、経営継続に心血を注ぐことになる。公共事業への依存度の高い当組合員は、受注の低迷と利益率の低下に加えて、DX の推進、工事施工の合理化、人材確保に奔走する必要に迫られている。</p>	管工事業

	5月の受注高は、対前年同月比 33.3%。今年度の累計では、対前年比 79.0%。	一般土木工事業 柳井市
	当地区の公共工事の発注高については、現在のところ例年並みである。	一般土木工事業 萩市
	原材料の仕入れ価格が再び上昇傾向にあり、見積もりの作成に苦慮している。瓦工事業連盟の会費の値上げはほぼ確実視されており、組合員への説明を尽くしているが、皆致し方ないと思っている。	屋根工事業
	工場稼働率は維持しているものの、小規模工事、改修や補強等の現場鉄工、他社応援が多い状況で、中型、大型の案件が少ない。受注物件の契約工期に遅れが目立ち、加工調整が難しくなっている。鋼材費の値上げや6月に値上げの品目もあり、適正価格での受注が重要だと考えている。	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	輸送関係は毎年のことながら5月の連休で稼働率が低下したが、輸送量は対前年比で 0.2%の増加。総体的に輸送量が減少しており、運転者の高齢化も大きく売上を左右する。燃料は前月と同額。軽油引取税は何とかならないかとの声が多い。	一般貨物自動車運送業 下松市
	自動車関連の組合輸送取扱高は前年同月比 50%のプラスとなった。コロナ前の水準には依然として遠く及ばない状況であるが、徐々に上向きつつある。燃料価格は前年比 3%程度の低下で落ち着きを取り戻している。	一般貨物自動車運送業 防府市
	輸送に関しては令和 6 年の「2024 年問題」に向けて運行管理の見直しを開始している。顧客の関心も高く、これまで同様、「安心して荷物を預けられる運行」を早急に提案する必要がある。輸送量は倉庫保管案件とともに微増である。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+19.0%（令和 5 年 4 月 1 日～令和 5 年 5 月 20 日分）だった。4 月 1 日～30 日分は+12.0%、5 月 1 日～20 日分は+32.8%。前々年度比では、それぞれ+43.1%、+32.4%、+65.8%になった。回復しているように見えるが、前年、前々年が大幅に減少したためであり、平成 31 年度 4 月分比（コロナ禍以前）では▲35.7%。まだまだ回復しているとは言えない。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。4 月分については、周南+14.5%、下松+19.5%、光+13.0%、防府市地区が+13.2%で、組合員の全域では+16.9%、地区外（員外）▲18.8%、合計+12.0%(+1,501 千円) だった。主要燃料である L P G については、C P（通告価格）と為替に連動して変動する。C P が下がり（前月 642.5/トンが今月 550.0\$/トン）、プレート（輸送）コストも下がり（前月 9,800 円/トンが今月 9,000 円/トン）。為替は円高（前月 134.92 円/\$ が今月 134.40 円/\$）となり、燃料単価は前月より▲9.0%下がり、前年 5 月比も▲23.6%と大幅に下がった。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。高齢乗務員が退職し、その補充ができない状況。時	一般乗用旅客 自動車運送業

	<p>間帯によっては、配車待ちでお客様を待たせる場合が多い模様。With コロナで、行動規制が緩くなり、需要が回復傾向にあるが、コロナ前（平成 30 年度）の需要の▲36%付近であり、まだまだ厳しい経営状況の模様。運賃改定の動きがあるが、山口県内の認可はもう少し遅れそうである。</p>	
	<p>5 月は対前年比同等となった。本年も同水準で推移して行く中で、月により多少の増減があるものと思われる。</p>	港湾運送業
その他	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で外国人技能実習生の送り出しをストップしていた国でも7月から再開となる予定で、少しずつ業界の動きが進み出した。介護業界の人員不足は変わらず、募集もハローワークや情報誌に掲載されているが、依然として人材確保が難しい状況。コロナ5類への移行で、経済回復により他業種での人材確保が急速に進み、介護業界の更なる人材不足が懸念される。6 月以降は外国人技能実習生の雇用を考える施設が出てくることを期待し営業活動の再開を目指す。</p>	介護事業